



いきいき和歌山がんサポート理事長 谷野裕一

がんになっても いきいきと!

⑤ 医師も経済学が大事

すよね。私は、医者でもリーダークラスやマネジメント、システム構築など、勉強しなければならぬことがたくさんあると思っています。北里ではグローバル経営大学院大学の短期コースで学びましたが、普段は自己流。本やテレビで勉強しています。

Eテレの欠乏の経済学の番組で手術室の話が出ていました。欠乏とは、時間、お金、その他いろいろなものが足りないこと。どれも足りなくてもほとんど同じことが起こる。欠乏によって集中が増して良いこともあるが、欠乏によってさらに欠乏が悪化すると言っていました。例えば、ある病院ではいつも手術室が満室で、緊急手術が必要になると手術の順番をその都度変更していたそうです。相談して常に1部屋空けておくことにしたところ、残業が減り、全てがスムーズに手術数も7%増加した。

ことしもあと1カ月。忙しい年末が迫ってきました。私は慶應大学から和歌山に帰ってきた1993年以来、25年間ほとんど毎年、12月には米国サンアントニオの乳がんシンポジウムに参加しています。世界中で分かっていること、分かっていること、自分考えていることが合っているのか間違っているのか。考える最良の機会です。ランニングもできなかったなあと思っています。

先週水曜日の午後10時ごろ、欠乏の経済学というのをテレビで見で、それに関連する本を読んでいます。医者を経済学が必要か?と思いま

この10年は、那賀病院、北里大学、神戸大学で過ごしましたが、いつも外来を回して回っています。検診後精密検査で受診する人は、できるだけ針生検などで確定診断を付けて検診に返すこと。時間が欠乏すると時間に追われて余裕がなくなり、針生検をする時間がなくなると、仕方がないから経過観察になる。経過観察の人が増えると、時間がなくて判断ができないので経過観察になる。悪循環で

す。どうしても診断がつかなくて経過観察になる人もいないことはないのです。が、できる限りそんな患者さんを少なくすることで時間を作ります。時間をかけて時間をつくる感じですね。そうすると患者さんがあふれないので、ちゃんと説明もできるし、良い診療ができる。考える時間が増えるので、さらに時間を作るシステム作りや、人材育成に時間がかげられる。みなさんも、混んでいる医者が良い

のではなくて、ちゃんと納得できるように説明してくれる医者が良いですよ。医者にも経済学は必要ですね。
NPO法人いきいき和歌山がんサポートは、がん患者・家族が楽しく暮らせるように活躍しています。ご寄付よろしくお願いします!
【連絡先】NPO 法人いきいき和歌山がんサポート(メール: ikiiki@jimotoyoku.jp)、寄付は紀陽銀行湊支店普通預金5852222